

長野県松本市
松本城下町跡

HONMACHI

本町 第3・4次

ISEMACHI

伊勢町 第14～17次

—平成9年度試掘調査報告書—

1998.3

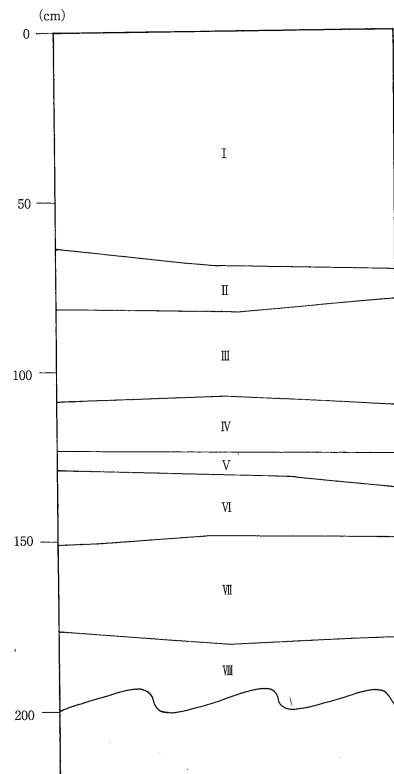
松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成9年度に実施した松本城下町跡本町および伊勢町の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本調査は中央西土地区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う試掘調査で、国庫補助事業として実施したものである。
- 3 本調査および本書の作成は、松本市教育委員会が実施した。
- 4 平成9年度は、7件の調査を実施した。このうち、本文では、本町第4次調査を報告する。
- 5 各調査の担当者は、以下のとおりである。
本町3次：長橋重幸、竹内靖長 本町4次：竹内靖長、村田昇司 伊勢町14次：高桑俊雄、村田昇司
伊勢町15次：澤柳秀利、今村 克、荒木 龍 伊勢町16次：長橋重幸、竹内靖長、村田昇司
伊勢町17次：竹内靖長、村田昇司
- 6 本書の作成にあたっての作業分担は、以下のとおりである。
遺構図調整・整理：石合英子 遺構図トレース：開嶋八重子 執筆・編集：竹内靖長
写真撮影：現場写真—調査担当者、遺物写真—宮嶋洋一
- 7 遺構番号は、各検出面ごとに1から付している。
- 8 本町4次調査および報告書作成にあたり、次の方々、諸機関のご教示・ご協力を得た。記して感謝いたします。(五十音順、敬称略)
飯島静男、市川文三郎、大江正行、岡部温故館、(株)開運堂、(株)唐木建築工業所、(株)竹中工務店、
(株)山田電器店
- 9 出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が所有し、松本市立考古博物館(〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL 0263-86-4710)が保管している。

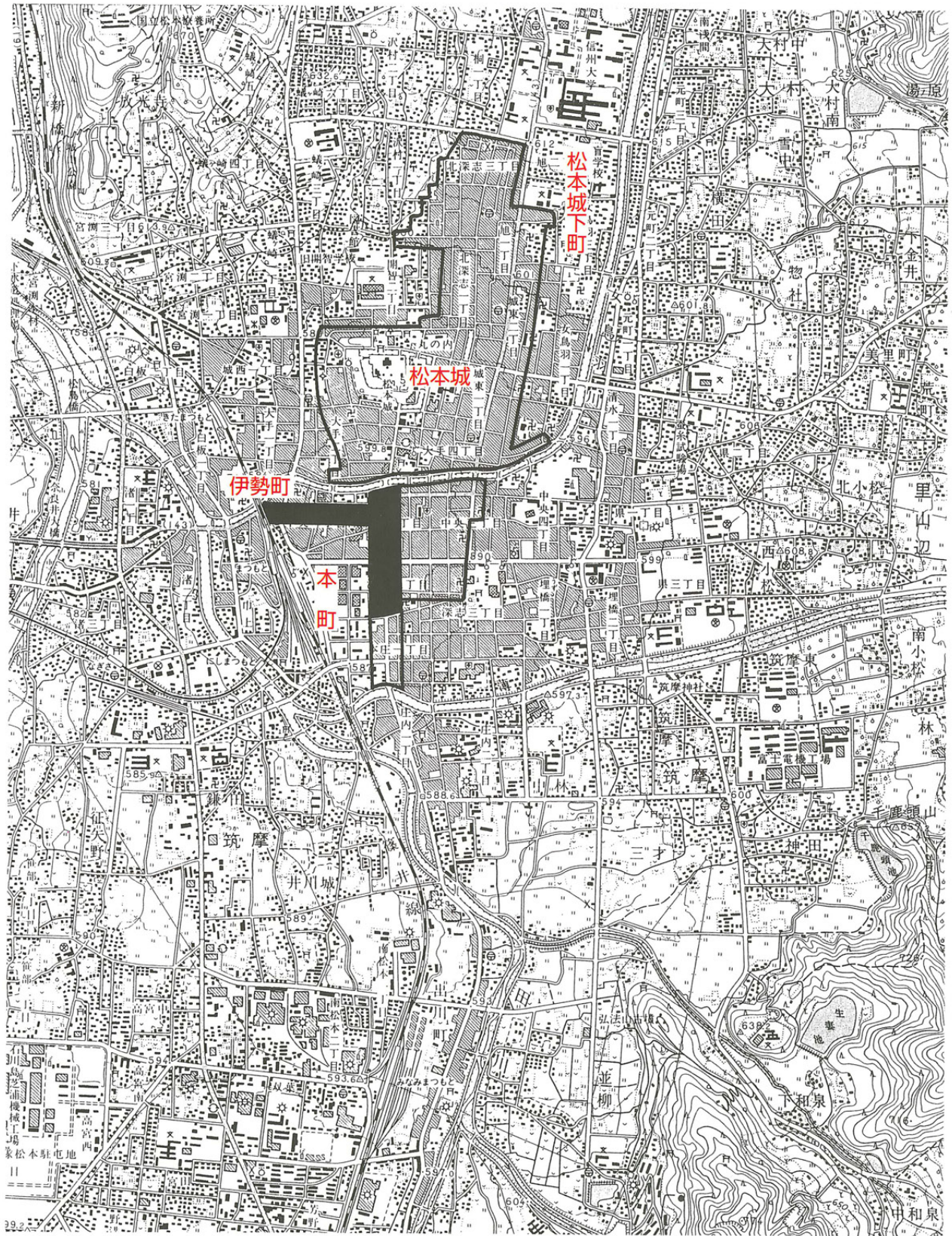
調査体制

調査団長 守屋立秋(松本市教育長)
調査担当者 長橋重幸、竹内靖長、澤柳秀利、高桑俊雄、
今村 克、村田昇司、荒木 龍
調査員 三村肇、森 義直
協力者 荒井留美子、飯田三男、清沢智恵、斉藤政雄、
鷲見昇司、瀬古雅大、中上昇一、中山自子、
御子柴長寿、山崎照友、吉田 勝
事務局 木下雅文(文化課長)、熊谷康治(課長補佐)、
村田正幸(文化財担当係長)、
近藤 潔、田多井用章、川上真澄

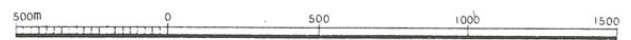


第1図 本町4次基本土層

I：近・現代層
II：灰褐色土
III：黄褐色土
IV：暗灰色土(焼土多量-火災層)
V：灰色土(焼土・炭多量の火災層、
第I検出面：18c後~19c)
VI：青灰色土
(第II検出面：18c代)
VII：暗褐色土
(礫多量、17c代)
VIII：暗褐色土(17c前半)
以下未掘



黒塗り部分が伊勢町・本町の範囲



第2図 遺跡の位置



伊勢町第1～17次調査地点
本町第1～4次調査地点

第3図 調査地の位置

1 平成9年度本町・伊勢町の発掘調査概要

平成9年度は、松本市中央西土地区画整理事業に伴い7件の発掘調査を実施した（第1・2表）。これらの調査のうち、3件（本町3・4次、伊勢町17次）は区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急発掘調査で、国庫補助事業として実施した。これらの調査箇所は、松本城下町跡の本町・伊勢町にあたる。各調査地点の概要は以下のとおりである。

本町第3次調査：17世紀中頃～19世紀前半の時期に比定される整地層6層を確認した。このうち第Ⅰ～Ⅲ検出面には、すべて火災の痕跡が確認できた。調査箇所は、敷地の奥側1／3部分の調査で、土蔵基礎やゴミ穴群などが発見された。

本町第4次調査：18世紀後半～19世紀前半の生活面1層を調査した。調査範囲が1軒の住宅のほぼ全域にわたったため、敷地内の土地利用が推定できる。また、木樋を接続して配水する水道遺構が良好な状態で発見された。

伊勢町第14次調査：17世紀前半～19世紀後半の整地層5層を確認した。出土遺物の中に、フイゴ羽口・埴塙・鉄滓などが多量にみられる点、焼土面が多数検出された点などから鋳物あるいは鋳掛に関連した町人の居宅と考えられる。また最下層では、城下町を造る際に、起伏のある自然地形を整地して平坦にした痕跡が確認された。

伊勢町第15次調査：17世紀後半～20世紀初頭の整地層4層を確認した。大正期と江戸後期の水道遺構が発見され、近世と近代の水道施設が比較できる点で注目される。大正期の水道は敷設当時の写真が残っており、写真資料と出土遺構が一致した好例である。

伊勢町第16次調査：16世紀後半～19世紀後半の整地層4層を調査した。また、伊勢町の町を区画する背割り溝である北蛇川の調査も併せて行った結果、16世紀後半以前と17世紀前半以降の町割りが大きく変えられていることが確認された。遺物では瀬戸黒茶碗が3個体出土し、うち1点は楽茶碗の器形を模したもので、岐阜県兼山町金山城出土品に次ぐ全国2例目の出土として注目される。

伊勢町17次調査：16世紀後半～19世紀前半までの整地層6層を確認し、このうち生活面と考えられる4層を調査した。遺構では、人為的に粘土が貼られて被熱している土坑が検出され、そこから鉄滓・埴塙などが出土していることから鋳掛などに携わっていた人物の居宅と推定される。

第1表 本町調査一覧

調査次数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積 (㎡)
3	松本市中央2-3-24	区画整理個人店舗建設	H9. 7/15～ 7/26	60 (×6面)
4	松本市中央2-2-21	区画整理個人店舗建設	H9.11/17～12/20	246.5 (1面のみ)

第2表 伊勢町調査一覧

調査次数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積 (㎡)
14	松本市中央1-9-31	区画整理再開発ビル建設	H9. 6/19～ 7/ 5	90 (×5面)
15	松本市中央1-7-7	区画整理道路建設	H9. 8/18～ 9/ 1	70 (×4面)
16 (A)	松本市中央1-9-29ほか	区画整理再開発ビル建設	H9. 8/26～ 9/11	202 (×4面)
16 (B)	松本市中央1-9-29ほか	区画整理再開発ビル建設	H9.10/ 6～10/17	180 (×4面)
17	松本市中央2-3-37	区画整理個人店舗建設	H9.10/23～11/14	80 (×4面)

2 本町第4次調査の概要

(1) はじめに

本調査は、松本市中央2丁目2-21において中央西区画整理事業に伴って実施した緊急発掘調査である。調査期間は、平成9年11月17日～12月3日（東半部）・同年12月9日～12月20日（西半部）、調査面積は246.5㎡を測る。調査地一帯は、松本城下町跡の町人地である本町にあたる。城下町は、親町と呼ばれる本町・中町・東町の3町と、枝町と呼ばれる伊勢町・飯田町・小池町などの10町の合計13の町で構成されている。このうち本町の歴史は最も古く、享保10年に書かれた「信府統記」には「…天正十三年より今の宿城の地割りをして、同年15年までに市辻・泥町あたりの町屋のこらず本町に引き移し…」とあり、松本城築城以前の深志城時代に小笠原貞慶により本町の町割りが行われたものと考えられる。このため、江戸時代を通じて問屋などが集中する商業活動の中心地であったと考えられる。

(2) 発掘調査の結果

①層序（第1図）

今回の調査は、開発が及ぶ現地地表下220cmまでの調査となったため、最下層までの確認ができなかった。面的な調査も一部を除いて、第1面（18世紀末～19世紀前半）のみとなった。基本土層は、Ⅰ～Ⅷ層を確認している（以下未掘）。第Ⅰ～Ⅳ層は近・現代の整地層である。Ⅳ層は焼土層が顕著に見られるため、明治期の火災の痕跡と考えられる。第Ⅴ層は、今回調査を行った第Ⅰ検出面にあたる。第Ⅵ～Ⅷ層は江戸時代の整地層で、それぞれの上面が生活面と考えられる。各層の時期は、遺物等からⅤ層：18世紀後半～19世紀前半、Ⅵ層：18世紀代、Ⅶ層：17世紀後半、Ⅷ層：17世紀前半の時期に比定される。

②検出された遺構

今回の調査で発見された遺構は、建物址10棟、水道遺構2条、土坑41基、ピット2基、埋設桶5基、溝状遺構3箇所である。これらの中から、主要な遺構について以下記述する。

建物址：10棟発見されている。これらは、間尺から建物構成を想定できる礎石（建9）、礎石根固め、あるいはその部分的な遺存状態のもの（礎石1・2）、土蔵基礎（建4・5・7）、敷地外郭を形成する石垣列（建1・2・6・8・10）などに分けることができる。

第4号建物址（以下建○と略す）は、敷地内の位置・平面形態などから土蔵の基礎と考えられる。基礎部分は、布掘り礎石工法を用いて作られている。布掘りされた溝状の掘り込みの中に、拳大の栗石が詰められ、その上面に間知石を設置している。また、本址西端に位置する土坑35は、間知石を設置する際に行った成形時の破片や、間知石を間断なく固定するために詰められた小破片の余剰を廃棄したのものと考えられる。

建1・10は、調査時には別々の遺構番号を付したが、敷地外郭南縁を形成する同一の石垣列であると考えられる。これは、布掘りされた掘り込みに杭および破碎礫で根固めし、その上面に胴木を設置し、四角錐の間知石を間断なく横位に積み重ねるといった構造をもつ。石垣裏込めは、小礫と黄褐色砂を用いている。石垣は、部分的に三段残存していた。間知石は南側に表面を向けているため、敷地南端を示す石垣列と考えられる。これに対応する南側隣地の北縁石垣列は、建2・6があげられる。これらも調査時点では別の遺構番号を付したが、同一の石垣列とみられる。構造は前述したものと同様である。

水道施設：上水道に関連した施設としては、これまでの調査で木樋・竹管・継手・埋設桶（上水桶）・溜井戸などの遺構が検出されている。本調査では、木樋により導水されるもの（水道遺構1）と、竹管により導水されるもの（水道遺構2）の2条が発見された。なお、水道遺構2は、第2検出面に帰属するものである。

水道遺構1は、上水管として木樋が使用され、継手や埋設桶で連結されている。これらは、水を汲むための埋設桶以外は地中に埋設されている。木樋は、1本の材木を縦に割って下半部を樋状に削り、板材で中蓋をして、

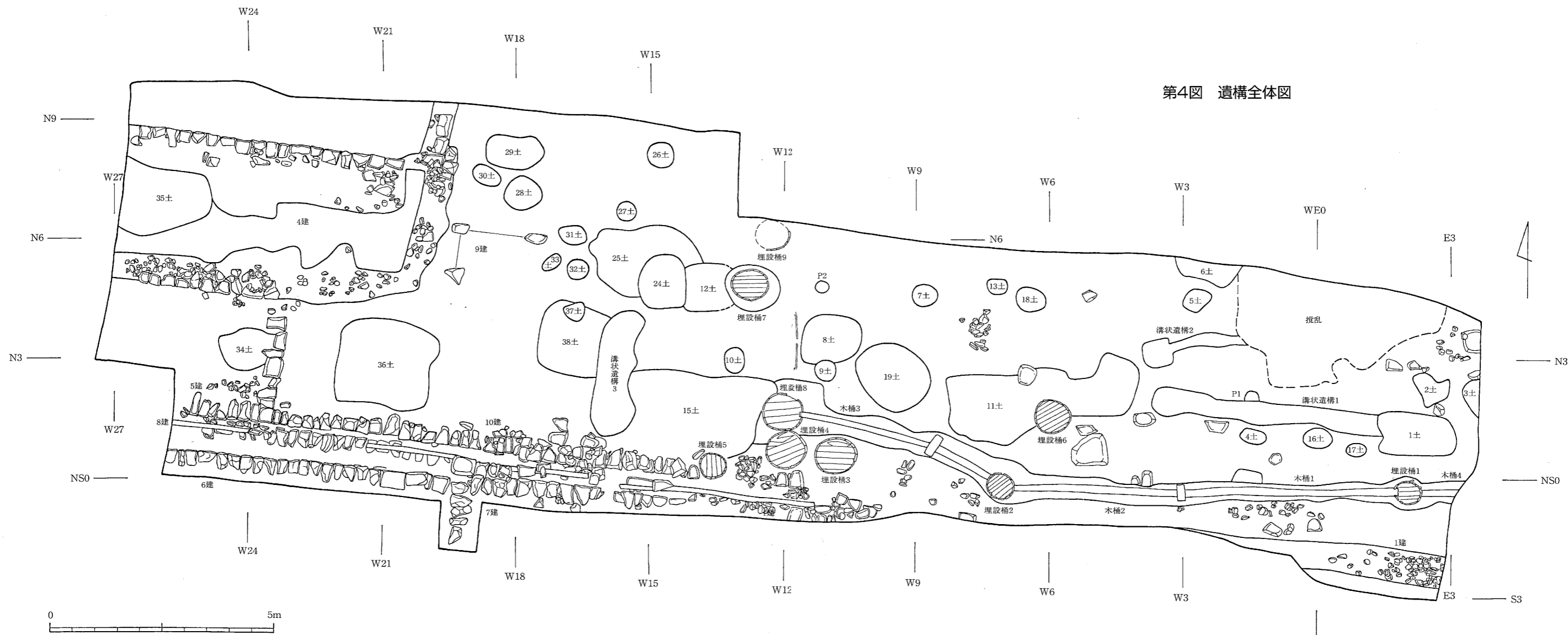
更に材木上半部で蓋をする形態を呈する。中蓋をする際には、隙間に棕櫚縄で目張りを施し、さらに粘土を塗って水が漏れないようにしている。また、継手との接続部にも同様に棕櫚縄を用いて目張りをしている。埋設桶は、主として2つの機能が考えられる。第1にそこから水を汲む、いわゆる上水井戸の役割である。第2には、水を配水するのに必要な勾配調整と、木樋の導線の方向転換をはかる役割である。勾配調整としては、埋設桶に接続する木樋の入水口が桶の下方にあり、出水口が上方にあるという原則がみられる。これは桶内で水位を上げ、導水を行いやすくするための工夫であると考えられる。また、埋設桶2・8の木樋内入水口部には栓が施してあった。この栓が、木樋が使用された時点にもあったのか、廃絶時に用いられたのかは不明である。埋設桶1・2には蓋が付属しており、蓋の裏面には墨書がみられた。埋設桶1には「…文化二乙丑年（1805年）六月吉辰…」、埋設桶2には「…文政十丁亥年（1827年）初夏…」とある。調査地周辺は、本町の中で最も早く水道が敷設された二丁目にあたる。宝暦五（1755）年に、澤木吉右衛門が町内の世話人8名と共同引井戸を計画し、水道を設置した。水源は、澤木吉右衛門所有地の宝泉院や長松院の東裏の涌水地に求め、小池町、飯田町の角や本町二丁目にも共同井戸が設けられた。この後、文化2（1805）年には、本町一丁目の要望により一丁目の共同井戸を中町角に設け、二丁目まで引いてあった上水道を延長した。埋設桶1の墨書が、本町一丁目へ延長した文化2年の年代が記されている点は興味深い。この水道配置は、明治44年に作成された「引井戸實測図」と一致するため、江戸後期～明治期まではこのような水道が引かれていたと考えられる。

水道遺構2は、下層の第2検出面の遺構で、竹管で埋設桶6に導水しているものである。

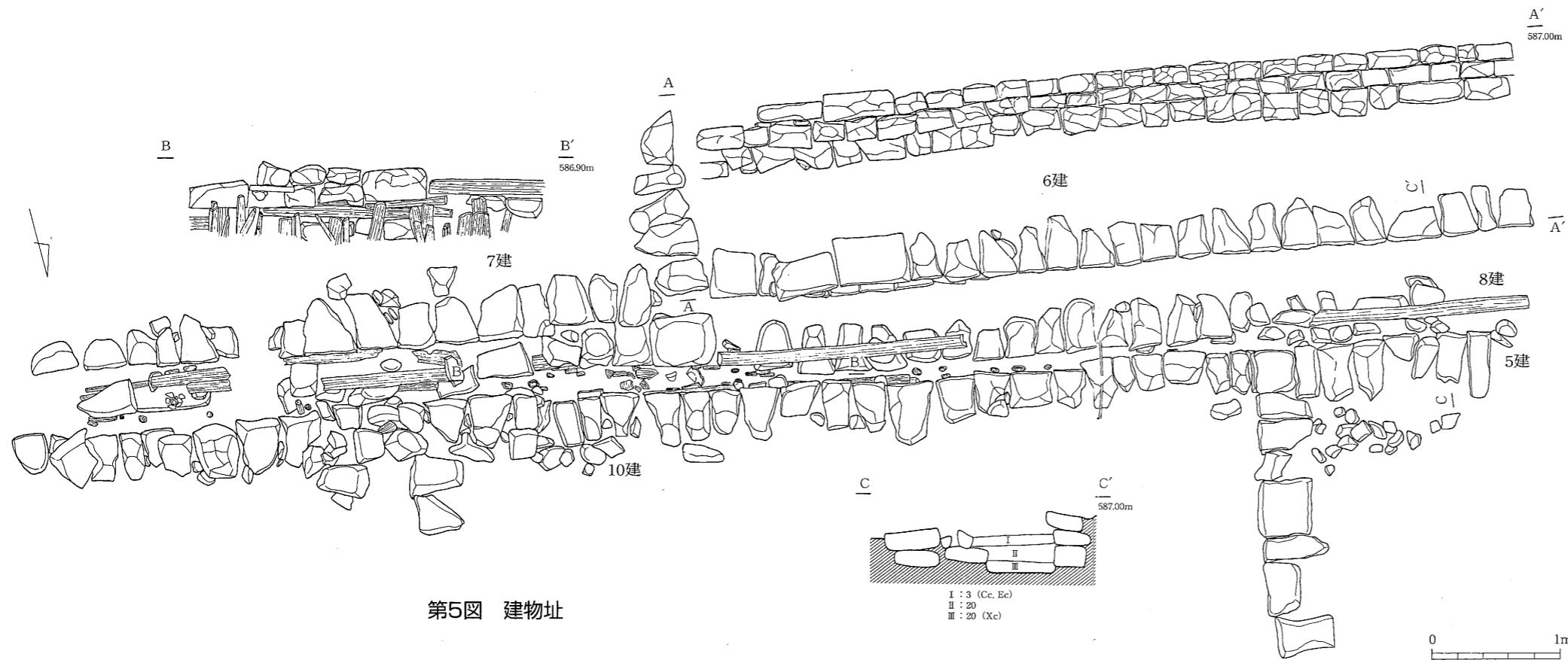
埋設桶6は桶底があり、複数段桶を重ねた溜井戸である。竹管は、検出された範囲で3個の継手で連結されており、継手2は方向転換の用途も兼ね備えているものであった。

土坑：41基検出されている。このうち9基は、第2検出面のものである。土8・12・19・15・24・25・15・36・38は廃棄土坑（ゴミ穴）である。

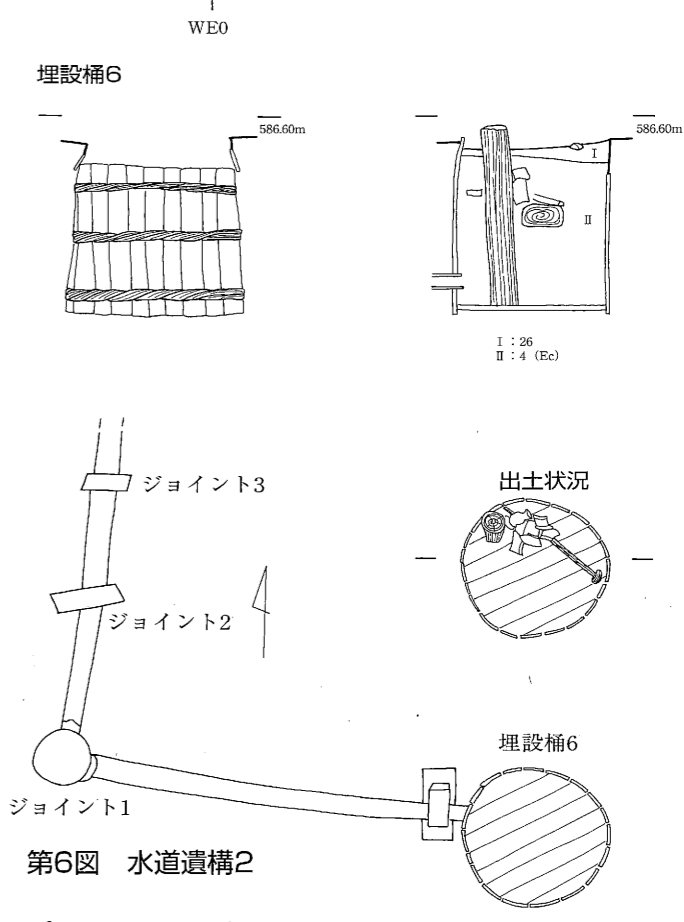
土36は、規模：長軸210×短軸150×深さ77cm、平面形は不整形を呈する。底面は、東半部が浅くテラス状に段をなしている。土38は、規模150×145×77cm、平面形は隅丸方形を呈する。これらの土坑は、上面から下面まで多量の砥石で充填されており、合計4,859点が出土した。これらの砥石は未使用のものとみられ、すべてのものの表面全体に、製作工程中に施されたと考えられる沈線状の工具痕（10条の沈線で1単位）が認められる。砥石はすべて長方形を呈し、およそ大小2法量が認められる（大：長辺16.4～16.8cm、短辺5.6～5.8cm、厚さ3.0～3.4cm、小：長辺13～14.5cm、短辺4.5～4.7cm、厚さ2.4～2.8cm）。これらの大部分には被熱した痕跡がみられ、第1検出面に火災の痕跡が認められることから、火災により廃棄されたものと考えられる。砥石についての文献史料には、元禄10（1697）年の松本諸職人の記述に上野砥石問屋が1軒みられる。また、宝暦13（1763）年の「松本町中馬往来荷品書上」には、中馬による松本からの移出品のなかに上野産砥石があり、飯田に向けて20駄送られているとの記述がみられる。本遺跡から出土した砥石を、群馬県地質学研究会の飯島静男氏に実見していただいたところ、群馬県甘楽郡南牧村の砥沢石であるという鑑定をいただいた。このことから、上野砥沢産の砥石が松本の問屋に仕入れられ、さらに各地に流通していた様子が窺える。また、出土量が多量であることと、すべて未使用品であることなどから、本調査地が砥石問屋であった可能性が十分に考えられる。



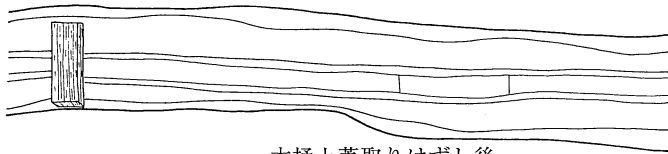
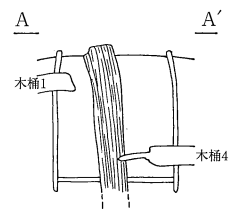
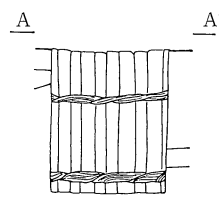
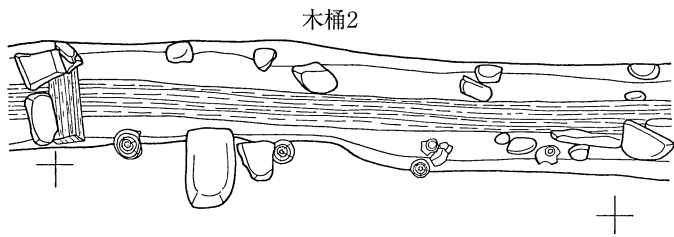
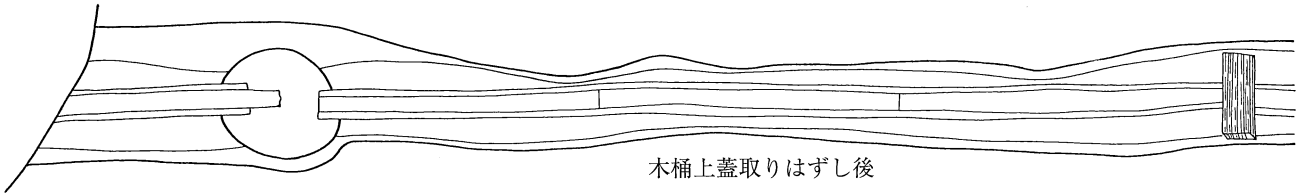
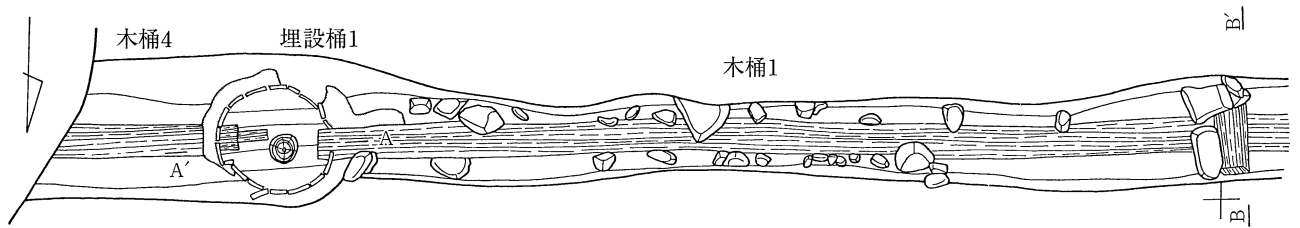
第4図 遺構全体図



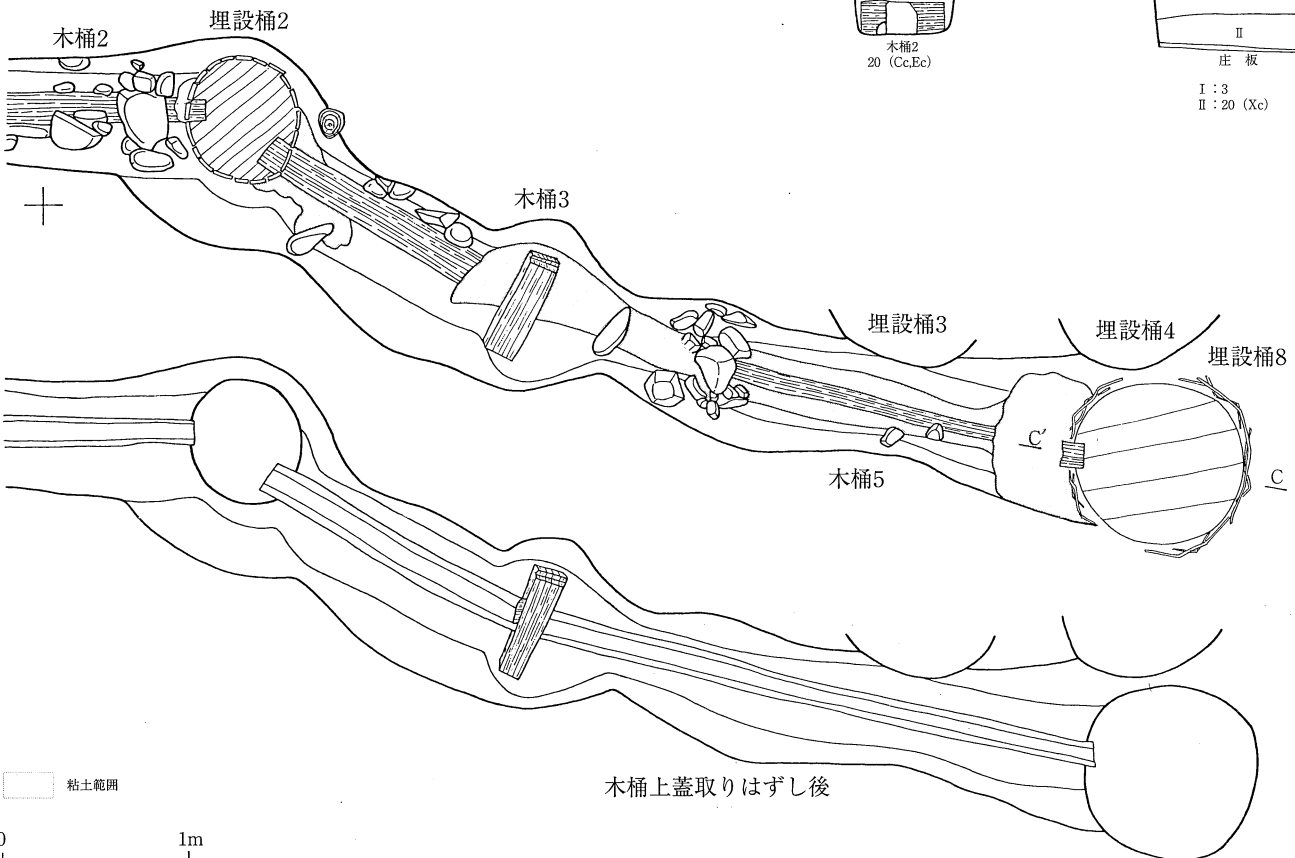
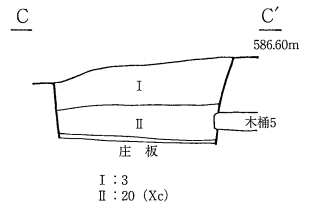
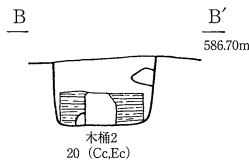
第5図 建物址



第6図 水道遺構2



木桶上蓋取りはずし後



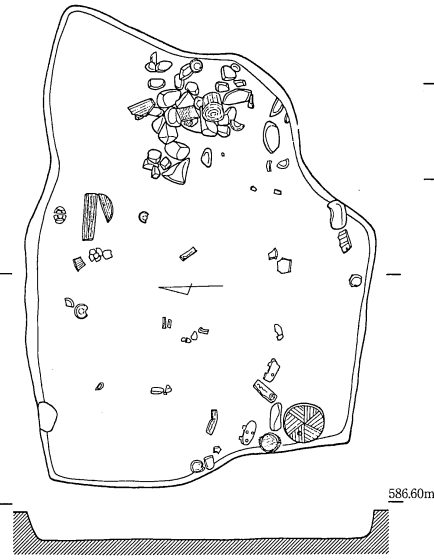
木桶上蓋取りはずし後

第7図 水道遺構1

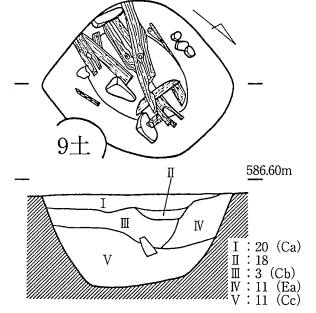
第4号建物址



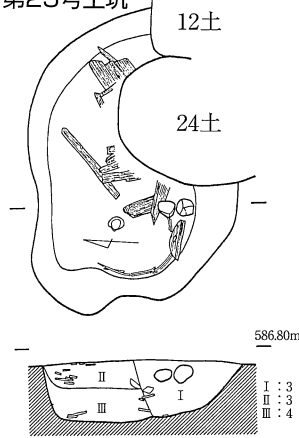
第15号土坑



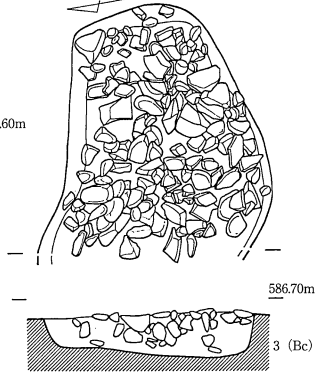
第8号土坑



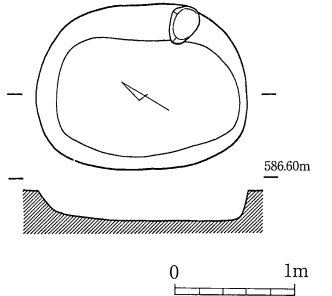
第25号土坑



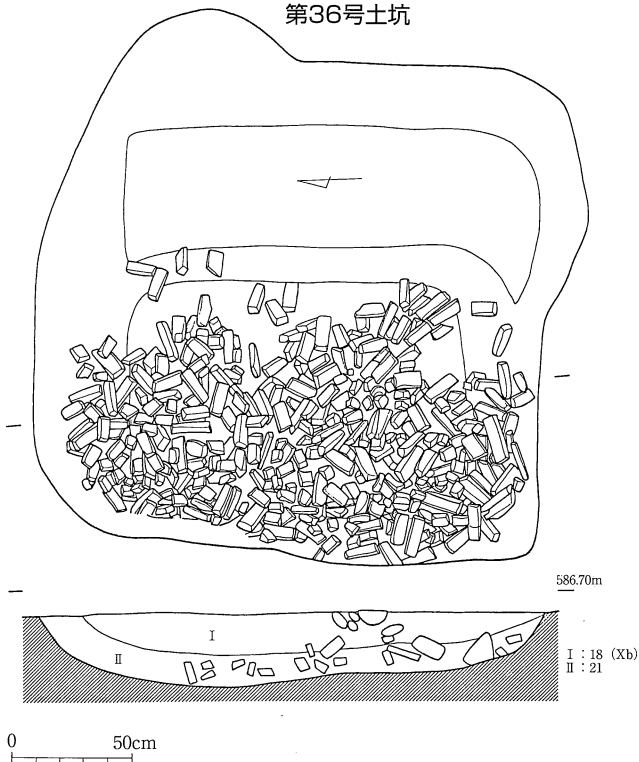
第35号土坑



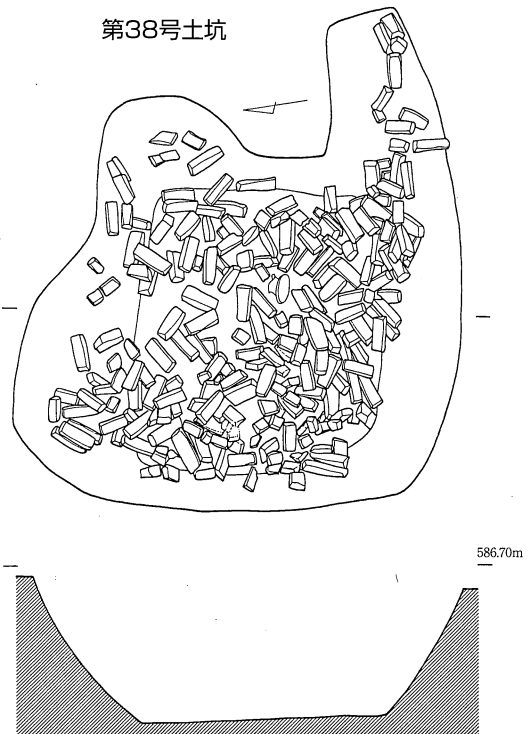
第19号土坑



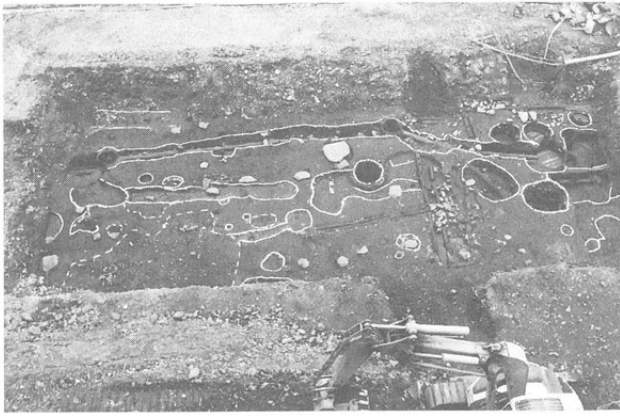
第36号土坑



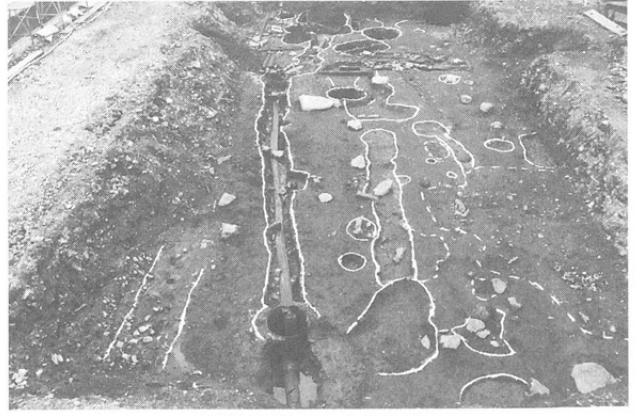
第38号土坑



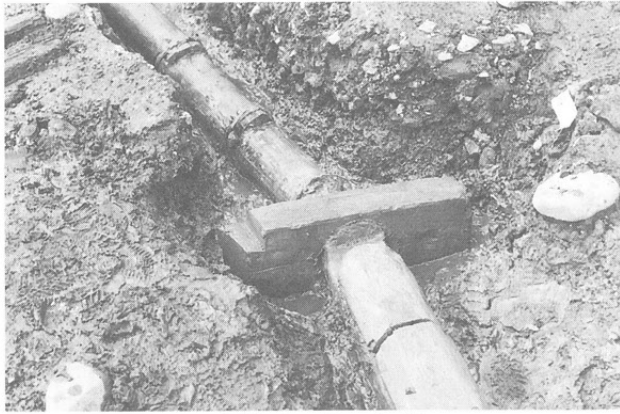
第8図 建物址・土坑



東半部全景（北より）



東半部全景（東より）



木樋ジョイント部



木樋上蓋（左）と中蓋（右）を取りはずし後



栓のある木樋（埋設桶 8 の接合部）



埋設桶 1

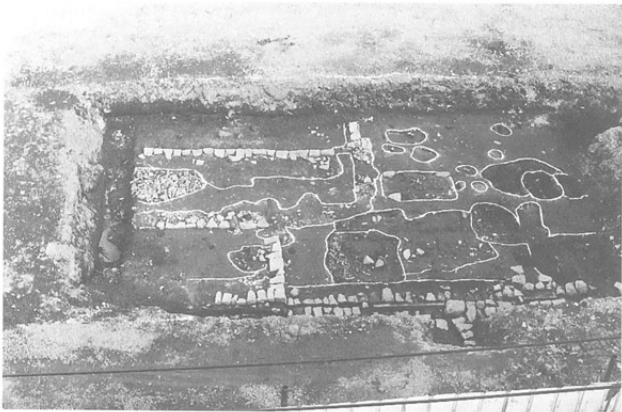


埋設桶 1 の蓋裏面にある墨書

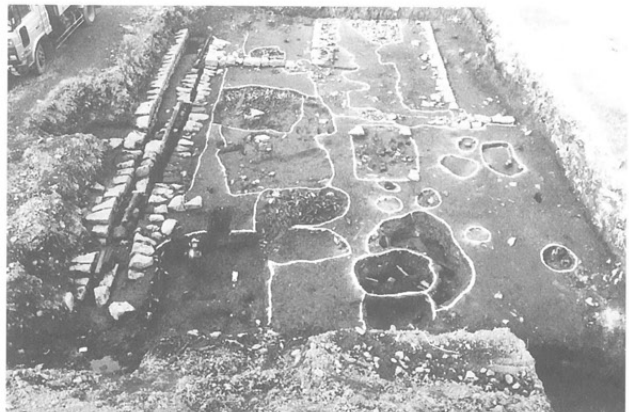


埋設桶 2

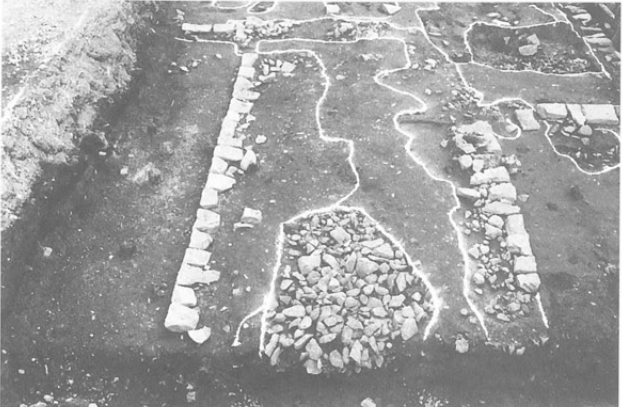
図版 1 本町 4 次遺構（東半部）



西半部全景（南より）



西半部全景（東より）



第4号建物址（西より）



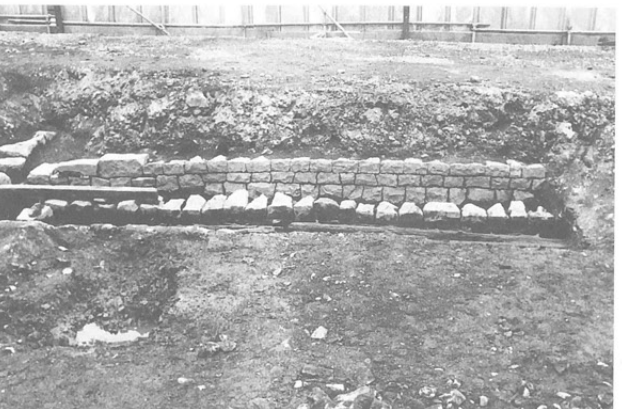
第35号土坑（礫出土状況）



第36号土坑（砥石出土状況）



第38号土坑（砥石出土状況）



第8・10号建物址（北より）



第8号建物址（基礎杭、胴木出土状況）

図版2 本町4次遺構（西半部）



鉄釉碗



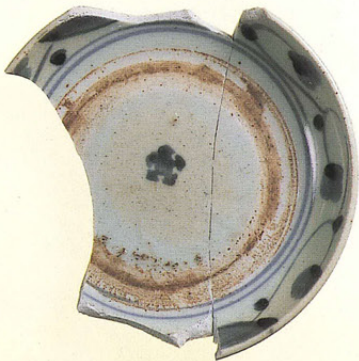
灰釉鉄釉掛け分け碗



灰釉碗



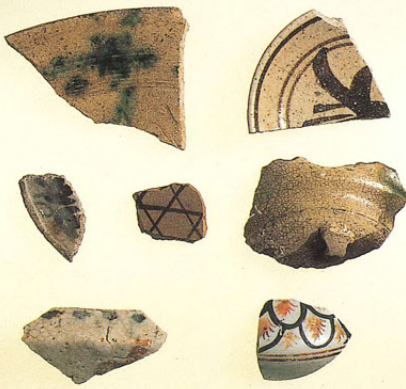
染付碗



染付皿



人形代 (土15出土)



下層出土陶磁器



簀

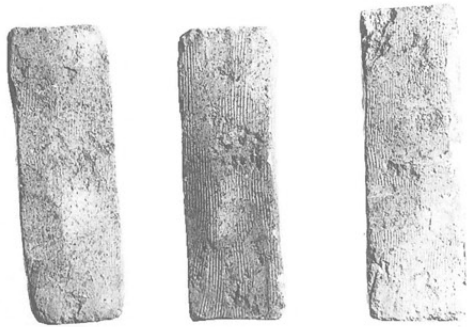
図版3 本町4次出土遺物(1)



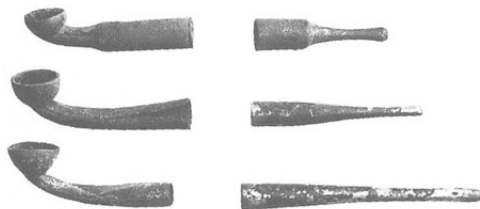
そば猪口



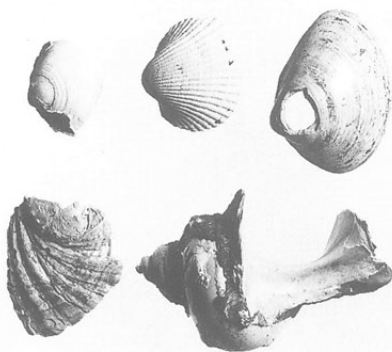
仏飯具



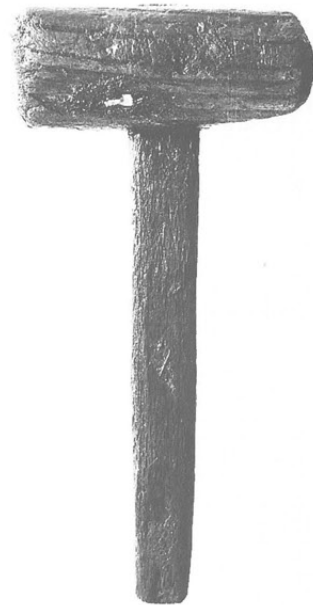
砥石（土36出土）



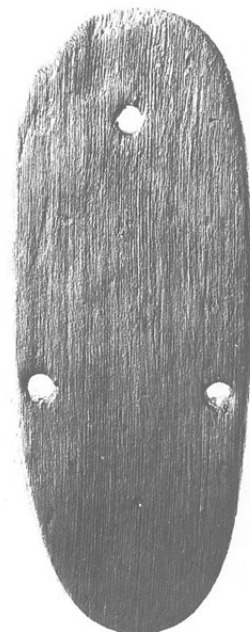
煙管（雁首と吸口は別個体）



食用にされた貝類（土15出土）



木槌（土15出土）



下駄（土15出土）

図版4 本町4次出土遺物（2）

松本城下町跡 本町第3・4次 伊勢町第14～17次 試掘調査報告書抄録

ふりがな	まつもとじょうかまちあと ほんまち いせまち							
書名	松本城下町跡 本町3・4次 伊勢町14～17次試掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.132							
編著者名	竹内靖長							
編集機関	松本市教育委員会（松本市立考古博物館）							
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号（松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710）							
発行年月日	平成10（1998）年3月31日（平成9年度）							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東径	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつもとじょうかまちあと 松本城下町跡 ほんまち 本町4次	長野県松本市	20202	157	36° 13' 48"	137° 58' 20"	H9.11/17 ～ 12/20	246.5	中央西 区画整理
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
城下町	中世 ～ 近世	建物址	10	陶磁器：瀬戸・美濃系、 肥前系、京都系、 信楽系など			19世紀前半の 町屋の良好な調 査事例である。 遺構では、遺存 状態の良好な水 道遺構、基礎構 造が明瞭に把握 できる建物址な どが注目され る。 遺物では、上 野砥沢産砥石が 4859点出土した。	
		土坑	41	金属製品：銭貨、煙管、 簪				
		ビット	2	木製品：下駄、曲物、 漆椀、箸、墨書荷 札、人形代				
		水道遺構	2	石製品：砥石、石臼				
		埋設桶	5					
		溝状遺構	3					

松本城下町跡

本町第3・4次 伊勢町第14～17次

—平成9年度試掘調査報告書—

発行日 平成10年3月31日

発行者 松本市教育委員会

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 電算印刷(株)